

『北海道考古学』投稿規定・体裁

I 会誌について	V 投稿規定	VIII 著者校正
II 投稿資格について	VI 原稿の体裁	IX 別刷り
III 原稿の採否について	VII 図版	
IV 著作権について		

I. 会誌について

1. 本誌は、北海道考古学会の機関誌であり、年1回の発行とする。
2. 原稿のテーマは、北海道とその周辺地域に関するものを中心とする。
3. 本誌は、論文、調査報告、研究ノート、資料・遺跡、研究大会記事、書評等から構成される。

II. 投稿資格について

投稿は、依頼原稿の場合を除き、本会会員に限る。未入会の場合は、入会手続き後に投稿資格を得る。
連名による投稿の場合、本会会員を1名以上含むこととする。なお、入会方法については北海道考古学会事務局またはHPの「学会案内・組織」を参照。

III. 原稿の採否について

1. 原稿の採否は、全編集委員、および必要に応じ委託された外部適格者による査読審査を経て、最終的に編集委員会の協議により決定する。
2. 査読結果の通知は入稿後、概ね1ヶ月半以内にメールまたは文書で通知する。

IV. 著作権について

近年、著作物の急速な電子的公開が進む中、本会でもこれに対応する必要から、平成28年度総会において、著作権に関する次の新たな「規則」が追加承認され、令和7年度総会において一部改訂が承認された。

2-6 北海道考古学会著作権に関する規則（2016年4月30日）（北海道考古学会規則第6号）

（目的）第1条 本会が発行する『北海道考古学』・『北海道考古学会だより』・『研究大会資料集』・『遺跡報告会資料集』他、印刷物等に掲載した論文等の著作権について定めることを目的とする

（著作権の所在）

第2条 前条に規定する印刷物等に掲載した論文等の著作権は著者に、編集著作権は本会にそれぞれ帰属する

（電子的公開・復刻など）

第3条 本会ホームページ等での電子的公開、また掲載誌等を復刻・再刊等をする場合は、投稿時点で著者の承諾を得たものとする

本会が電子的公開・復刻等をする場合、著作料は支払わない。

掲載原稿（図表、写真等を含む）の転載に当たっては、著者及び著者が編集に関わる団体が発行する出版物に限り、本会の承諾を得ず、掲載原稿の転載は可能とする。

なお、他の出版物から図・表を引用する際に転載許可等が必要な場合には、著者の責任において行う。

（附則1 この規則は、2016年4月30日より施行する）

（附則2 この規則は、2025年6月1日に一部改訂、施行する。）

V. 投稿規定

1. 本誌に発表する論文等は、いずれも未発表のものに限る。
2. 原稿の種類と分量（いずれの場合も偶数頁とすること）

論文：執筆者(等)による独自の研究成果。20頁以内。

調査報告：執筆者(等)による独自の調査成果。20 頁以内。

研究ノート：新しい着想・問題提起に関する短論文。10 頁以内。

資料・遺跡：注目すべき遺物・遺跡の紹介。10 頁以内。

書評：刊行された書（報告書を含む）、または『北海道考古学』に掲載された論文の批評。2 頁以内。

3. 要旨ならびにキーワード（上記各分量に含まれる）

要旨：論文には、本文の冒頭に 400 字以内で要旨を記載すること。英文要旨の併用を希望する場合は、論文末尾に 300 語以内で記載すること。

キーワード：論文、調査報告、研究ノート、および資料・報告には、冒頭にキーワード（5 語以内）を記載すること（論文の場合は、要旨の後に）。英語キーワードの併用を希望する場合は、英文要旨の前に、5 語以内で記載すること。

英文タイトル：上記の分量には含まれないが、会誌の英文目次のため、原稿の種類を問わず英文タイトルを記載すること

4. 翻訳原稿、あるいは日本語以外で執筆した原稿は、投稿前に言語の校閲を投稿者の責任において行うこと。

5. 投稿申請方法・申請先（投稿申請用紙は事務局および HP から入手可能）

投稿希望者は、学会ホームページ掲載の申請書に必要事項を記載の上、下記申請先にメール添付で送付する。

申請期限：毎年 10 月第一週金曜日とする。

申請先：mail:hokkaido.kokogaku@gmail.com（編集委員会事務局）

6. 原稿送付方法・送付先

原稿締め切り：毎年 11 月第三週金曜日必着とする。

原稿送付先：投稿申請者に個別に連絡する。

送付原稿：

投稿原稿は、文章ならびに、図・表・写真等を含む全デジタルデータとする。

また、本規定にしたがいレイアウトした PDF データもあわせて投稿する。編集事務局は、投稿データに基づき画像解像度等の事前確認を行うこととする。

投稿原稿は、CD-ROM または DVD-R に格納して送付するか、メール添付、データ便等を活用し、電子送付する。送付があった投稿原稿は原則として返却しない。但し、返却を希望する場合は、申請書の所定欄に記すこと。

会誌編集委員会は査読審査の徹底を図るため、原稿内容のみに力点を置くこととし、原稿体裁については、事前に編集委員会事務局が確認を行う受付期間を設けることとする。

この期間は、毎年 11 月第三週金曜日～毎年 12 月第一週金曜日とする。

体裁確認が終了した原稿は受領し、採択の査読審査を行うこととする。

7. 原稿の採択

査読委員会により採択が決定された原稿は、査読完了順に当年度の会誌に掲載されるが、場合によっては、次年度に掲載することがある。

VI. 原稿の体裁

1. 書式

版面：B5 判・横組み。縦 198×横 136 mm（キャプション込み）。

余白：天 27 mm、地 32 mm。のど（左）26 mm、小口（右）20 mm。

段組・文字行数：論文・調査報告は一段組、42 字×36 行（本文フォントサイズ 9pt）とする。

それ以外の原稿は二段組、23 字×45 行（本文フォントサイズ 8pt）とする。

表1 会誌原稿の種類・分量・書式 一覧

原稿種類	分量	項目	字サイズ	書体	字詰め	行数	備考
・論文 (特集号論文も同じ) ・調査報告	20 頁以内	キーワード	7.5 Pt (11Q)	ゴシック			5 語以内, 氏名の次の行から
		要旨	7.5 Pt (11Q)	明朝	50 字	8 行以内	書き出し:8 行目から
		本文	9 Pt (13Q)	明朝	42 字	36 行	見出し:ゴシック
		註・文献	7.5 Pt (11Q)	明朝	49 字	43 行	
・研究ノート ・資料・遺跡 ・書評	10 頁以内	キーワード	7.5 Pt (11Q)	ゴシック			5 語以内, 氏名の次の行から
		本文	8Pt (11Q)	明朝	2 段組 23 字	45 行	書き出し:8 行目から
		註・文献	7.0 Pt (10Q)	明朝	2 段組 25 字	49 行	
・大会記事	4 頁以内	本文	8Pt (11Q)	明朝	2 段組 23 字	45 行	

※ 図版キャプション: 7pt のゴシック体を原則とする。

2. 使用漢字仮名使い他 常用漢字、新仮名づかい、新送り仮名を原則とする。
3. 句読点 「、」と「。」を使用する。
4. 全角文字と半角文字
和文: 漢字、平仮名、カタカナ、句読点、括弧記号等は、原則として全角文字とする。
但し、註に関する括弧は半角とする。詳細は「9. 註」を参照。
欧文およびアラビア数字: 半角文字 (英文フォント) とする。
5. 数量の単位 国際単位系 (SI) とし、記号を用い、ピリオドはつけない。
cm km g kg t cc ha °C % 等
6. 理化学的分析にかかる表記
「¹⁴C」(放射性炭素同位体)、「¹⁴C yr BP」(炭素 14 測定年代)、「cal BP」または「cal yr BP」(較正年代)、「cal BC」または「cal yr BC」(較正暦年代)、「 $\delta^{15}\text{N}$ 」(安定同位体比)、等
※ 専門誌でもバラツキがあるものについては主な表記を併記した。いずれの使用も可だが、いずれかに統一すること。
7. 紀元前・紀元後の欧語表記
「BC」(紀元前)、「AD」(紀元後)。なお、近年国際的に使用が広がっている「BCE」(Before Common Era)、「CE」(Common Era)も可とする。但し、いずれかに統一して使用すること。
8. ルビ
本文中の人名、地名、遺跡名等、読み難いと思われるものは初出時にルビをふること。
9. 註
 - ・不必要に多くならぬよう留意する。本文中では該当箇所に、両丸括弧に入れたアラビア数字を上付き文字として下記【例】のように番号を振る。アラビア数字を囲むため、丸括弧は半角とする。
 - ・註は、引用文献とは分けて、本文の末尾にまとめて記載する。

A. 本文中

【例】 ① 出土している⁽¹⁾。(句読点の前に) ② 「東釧路IV式」⁽²⁾ (鉤括弧の後に)

B. 文末

本文末行から改行して 1 行空け、通し番号とは全角 1 字分を空けて記載する。2 行目以降は、全角 1 字下げで続ける（「_」は全角スペースを示す）。

〔例〕 (1) __彼らが代表的なツンドラのトナカイ遊牧民であることは事実だが、必ず
__しもすべてがトナカイ遊牧に携わっているわけではない。例えば・・・

10. 文献註（本文中での文献の引用）

- ・本文中で引用した文献は両丸括弧付き割注とし、（著者名_出版年）のように記載する。文献が欧・露語であっても、和文中での記載であることから丸括弧は全角とし、出版年についてはアラビア数字とする。
- ・直前に引用した文献については、間に他の引用文献を挟まず、完全に同一の場合は「同上」とのみ記載する。引用ページのみ異なる場合は、頁数を入れ「同上:_〇」とする。間に他の文献を挟まずとも頁が変わる場合は、初出と同様に記載する。本方式では、「前掲書」、「同前」等は使用しない。
- ・著者名と出版年の間は半角スペースで区切る。（「_」は半角スペースを示す）。以下、各事例を示す。

A. 単著の場合

〔例〕 ① 和文献（大場_1965） ② 欧文献（Weber_2016） ③ 露文献（Аксенов_1977）

同一著者に同年出版の文献がある場合は、和文、欧文、露文の場合を問わず、発行月日の古い順にアルファベットを与え区別する。

〔例〕（桜井_2005a）（Gordon_2002b）（Кузнецов_1992c）

さらに、同一著者の同年、あるいは異年出版文献を複数引用する場合は、和文、欧文、露文を問わず半角カンマ「,」で区切り記載する。

〔例〕（桜井_2005a_b）（Gordon_2002b_c）（Дервянко_1976c_d）
（桜井_2004_2007）（Gordon_2002_2014c）（Дервянко_1976c_1998d）

B. 著者が複数の場合

〔例〕 2 名の場合：和文献では「・」、欧文献では「and」（英）、「und」（独）、「et」（仏）等、で併記する。
露文献では、カンマ「,」で区切り併記する。

① 和文献（小池・高橋_1985） ② 欧文献（Anderson and Bailey_2013）
③ 露文献（[Шубина, Жушиховская_1986]

3 名以上：ファーストオーサーのみ表記し、他は、和文献では「他」、欧文献では「et al.」、露文献では「и др.」とする。なお、同一著者を含み文献相互の区別が難しい場合は、「筆頭者名他〇名」と記載する。欧露文献の場合も同様とする

① 和文献（池田他_1995）（青野他 5 名_2016）
② 欧文献（Hamilton_et_al_1997）
③ 露文献（Василевский и др_2010）

※ ラテン語である「et al.」は本来はイタリック表記とすべきものだが、近年の欧米論文では著編者に使用する際イタリックにしない傾向が強いので、本規定でも不要とする。

C. 引用箇所を示す必要がある場合

出版年の後に半角コロンと半角スペースを入れ、「著者名_出版年:_引用頁数」のように該当頁を数字のみで表記する。引用頁が複数になる場合は、数字をハイフンで繋いで記載する。欧文献、露文献の場合も同様とする。

〔例〕 ①（高橋_2007:_48） ②（王_1999:_21-22） ③（Голубев_1994:_31-35）

※ ページ数の範囲は本来 N ダッシュを用いるのが正しいが、記述の利便性からハイフンで代用し、編集・印刷段階で適宜調整する。

D. 異なる著者の複数の文献を引用する場合

和文献、欧文献、露文献を問わず、著者相互は半角セミコロンと半角スペースで区切り記載する

- [例] ① 和文献 (田村_2010;_池田_2006) ② 欧文献 (Matthiessen_1999;_Melrose_2005)
 ③ 露文献 (Лебединцев_1998;_Нестеров_1996)

E. 編書の場合

- [例] 1 名の場合: ① 和文献 (阿部編_2011) ② 欧文献 (Anderson ed._1965)
 2 名の場合: ① 和文献 (橘・河合編_2003) ② 欧文献 (Dixon and McCartney eds._1965)
 3 名以上の場合: ① 和文献 (山本他編_2008) ② 欧文献 (Kenneth et al. eds._1989)
 ※ 露文献では編者名の記載は必須ではないので、露文献リストでの記載方式に従う。

11. 文献一覧

- ・論文中で掲げた文献は、日本語文献、欧語文献、及び露語文献に分けて、論文の最後に記載する。著者・編者ごとに、日本語は五十音順、欧露語はアルファベット順とする。
- ・同一著者、または編者の文献は、出版年次の古いものから新しいものへと配列する。同年に複数の文献がある場合は、出版年の最後に「a」以下のアルファベットをつけ区別する。
- ・著者名、または編者名の後で改行し、次行は全角 1 字下げで出版年次から記載する。3 行目以降は、全角 4 字下げで記載する。
- ・(出版地) と (出版社/発行主体) の間は半角コロンで区切る。
- ・(出版年) と (論文名・書名・シリーズ・版・監修・巻号数)、および (出版地) の間は半角スペースで区切る。句読点は使用しない。但し、編者名が書名に先行する場合は、論文名との間に半角スペースを空ける。
- ・印刷中のものは最後に「印刷中」とする。
- ・「DOI」(Digital Object Identifier: インターネット上のドキュメントに恒久的に与えられる識別子) を取得している論文の記載方法については、英語論文での事例が多いので、【欧文の場合】で記す。
- ・上記以外のウェブサイトで公表されている各種文書、データベース、画像等の引用については、【ウェブサイト上の情報の場合】で記す。

【邦文の場合】

A. 単行本

- [例] ① 単著の場合
 都出比呂志
 1983『日本農耕社会の成立過程』_東京:岩波書店
- ② 共著の場合 文献註の場合とは異なり、全員の氏名を「・」で繋いで表記する
 金田明大・津村宏臣・新納泉
 2001『考古学のための GIS 入門』_東京:古今書院
- ③ 編者の場合
 小口雅史編
 2011『海峡と古代蝦夷』_東京:高志書院
 東北学院大学東北文化研究所編
 2011『古代中世の蝦夷世界』榎森進・熊谷公男監修_東京:高志書院
- ④ 編者が 3 名以上の場合は、4 人目以下を「他」とする。監修者がいる場合は、書名の後ろに記載する。
 内山純蔵・中井精一・中村大編
 2010『東アジア内海的环境と文化』金関恕監修_東京:桂書房

B. 逐次刊行物

- ・誌名に副題があるものは、原則として原典の通りに、主題とともに二重鉤括弧『』に入れて記載する。主題に通し番号が含まれるものは主題として扱う (①)。
- ・分冊名を記載する場合は、原則として原典の通りに、誌名に続け全角角括弧に入れて記載する (①)。
- ・冊子体の「第」、「巻」、「号」、「集」、「輯」は原則として用いず、「14(3)」のように半角英数で記載する。
- ・発行主体名に都道府県名や市町村名があるもの、及び学術雑誌には発行地は記載しない。
- ・発行主体の「(財)」、「独立行政法人」等の法人種別は記載しない。
- ・発行主体の逐次刊行物としてシリーズ名・連番があるものは、それらを書名の後に全角丸括弧に入れて記載する (①・③)。

[例] ① 遺跡調査報告書の場合

青森市教育委員会編

__2011_『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅳ—石江土地区画整理事業に伴う発掘調査—』[第2分冊:石江遺跡群分析編2] (青森市埋蔵文化財調査報告書_108(2))

② 紀要類の場合

旭川市博物館編

__2000_『旭川市博物館研究報告』6

③ 紀要であるが特定のテーマで編まれた独立性の高いケース

阿部義平編

__2008_『[特定研究] 北部日本における文化交流—続縄文期 寒川遺跡・木戸脇裏遺跡・森ヶ沢遺跡発掘調査報告<上>』(国立歴史民俗博物館研究報告_143)

C. 叢書の場合 (刊行終期のあるシリーズもの)

- ・逐次刊行物と基本的には同様の記載であるが、特定のテーマで編まれるので、逐次刊行物より各巻/号の独立性が高く、書名とシリーズ名の表記にバラツキがある。原則的には原典の記載を基本とする。
- ・シリーズ名や連番があるものは、それらを書名の後に全角丸括弧に入れて記載する (①)。
- ・巻ないし号ごとにテーマや番号がある場合は、書名の中に全角丸括弧に入れて記載する (②)。
- ・巻ごとの独立性がさらに強く、シリーズ番号もたないものはシリーズ名のみとする (③)。

[例] ① 小杉康・谷口康浩他編

__2010_『縄文文化の輪郭—比較文化論による相対化』(縄文時代の考古学 1) _東京:同成社

② 加藤晋平・小林達夫・藤本強編

__1981_『縄文文化の研究 (縄文土器Ⅱ)』4_東京:雄山閣

※この事例は、原則からは『縄文土器Ⅱ』(縄文文化の研究 4)と記載されるべきもので、出版元でもそのように扱われているが、上記のようにシリーズ名を優先する方式が国立国会図書館等で定着しており、文献検索上での混乱を避けるために例外的に可とする。

③ 寺沢 薫

__2014_『弥生時代の年代と交流』(弥生時代政治史研究) _東京:吉川弘文館

D. 冊子体所収の論文の場合

- ・引用論文を記載する場合は、論文表題を鉤括弧(「」)に、所収文献名は二重鉤括弧(『』)に入れる。
- ・論文の所収頁は、前の項目と全角スペースを空けて、最後尾にアラビア数字とハイフンを用いて「〇〇-〇〇」のように記載する。「頁」は使用しない。

[例] ① 単行本所収の場合

田中広明

__2010_「腰帯をつけた蝦夷」_小松正夫編著『北方世界の考古学』_東京:すいれん社__119-142

② 逐次刊行物所収の場合

村上恭通

__1992a_「朝鮮半島の副葬鉄斧について」『信濃』44(4) __1-15

__1992b_「中九州における弥生時代鉄器の地域性」『考古学雑誌』77(3) __63-88

奈良拓弥

__2010_「堅穴式石槨の構造と使用石材からみた地域間関係」『日本考古学』29 __61-80

③ 版刷・再録を記載する場合

版刷の記載は書名の後に続ける。再録を記載する場合は初出誌情報の後に全角丸括弧に入れ、(再録 著者名_出版年)と記載する。所収頁の記載が必要な場合は、文献註の記載方法と同様とする。再録文献についても文献一覧に加える。

加藤道男

__2005_「南小泉式土器」『日本土器事典』第1版第5刷_東京:雄山閣 __717

種市幸生

__1979_「八、オホーツク期（北海道考古学講座8）」『北海道史研究』18_札幌:北海道史研究会_36-56_(再録 種市_1980)

__1980_「オホーツク文化」_野村崇・菊池俊彦編『北海道考古学講座』_札幌:みやま書房__183-209

【欧文の場合】

- ・記載項目は邦文の場合と基本的に同一であるが、記載方法において異なる点を記す。また、逐次刊行物および叢書については、「B. 欧文冊子体の論文」に一括する。
- ・ピリオド、コロン、セミコロン、括弧類の後ろには原則として、半角スペースを入れる。
- ・氏名は、ファミリーネームの後にカンマを入れ、ファーストネーム、(ミドルネーム)の順に記載する。
2人目以上の場合：フルネームで記載するなら、従来通り、ファーストネーム、(ミドルネーム)、ファミリーネームの順とする。但し、ファーストネームやミドルネームが省略形である場合は、筆頭者と同様に、ファミリーネームが先行する形で記載してよい。
- ・ファーストネームとミドルネームがイニシャルのみの場合、本来的には半角スペースを必要とするが、近年欧米の論文では入れないケースが増えているので、本規定でもスペースは入れないこととする。
- ・出版年にはピリオドは打たず、書名、あるいは論文名との間を、半角2字下げとする。
- ・書名はイタリック体とし、副題がある場合はコロンの後に記載する。
- ・印刷中のものは、最後に(in press)と記載する。

A. 欧文単行本

[例] ① 単著の場合

Shennan, S.J.

__2003_ *Genes, Memes and Human History: Darwinian Archaeology and Cultural Evolution*.
London: Thames and Hudson.

② 共著の場合

- ・著者名は人数にかかわらず全員の氏名を記載するのが原則とする。

2名の場合：「and」で繋ぐ。3名以上の場合は、カンマで区切って続け、最後の著者の前に「and」を入れて記載する。

Ashmore, W. and Knapp, A.B.

__1999_ *Archaeologies of Landscape: Contemporary Perspectives*. Oxford: Blackwell.

③ 編書の場合

- ・編者名の後ろに、半角丸括弧に入れた「ed.」を記載する。

Appadura, A. (ed.)

__1990_ *The Social Life of Things: Commodities in Cultural Perspective*. Cambridge: Cambridge University Press.

- ・2名の場合は共著の例と同様に「and」で繋ぎ、最後の編者の後ろに「(eds.)」を付す。3名の場合は、カンマで繋ぎ、最後の編者の前にカンマと「and」をいれ名前を記し、最後に「(eds.)」と付す。4名以上は、3名までをカンマで繋ぎ、半角空けて「et al.」、「(eds.)」と記載する。

Emerson, T.E., McElrath, D.L., and Fortier, A.C. (eds.)

__2000_ *Late Woodland Societies: Tradition and Transformation across the Midcontinent*.
Lincoln: University of Nebraska Press.

B. 欧文冊子体（単行本、シリーズ本）所収の論文の場合

- ・論文名は、二重引用符(“”)に入れ、最後にピリオドを打つ。
- ・著・編者名は、「In:」に続けてカンマで区切り記載し、編者の場合は後ろに(ed.)または(eds.)をつける。この場合は、2名でも「and」は用いない。3名までは記載し、それ以上は、「et al.」とする。
- ・頁数は最後にアラビア数字とハイフンを用いて記載し、最後にピリオドを打つ。

[例] ① 単行本所収の場合

書名はイタリック体とし、最後にピリオドを打つ。

Gjesfjeld, E. and Phillips, S.C.

__2013__ “Evaluating adaptive network strategies with geochemical sourcing data: a case study from the Kuril Islands.” In: Knappett, C. (ed.), *Network Analysis in Archaeology: New Approaches to Regional Interaction*. Oxford: Oxford University Press. _281-305.

Fitzhugh, B.

__2016__ “Origins and development of Arctic maritime adaptations in the western Subarctic.” Friesen, T.M., Mason, O.K. (Eds.), *The Oxford Handbook on Arctic Archaeology*. Oxford: Oxford University Press (in press).

② シリーズ本の場合

- ・ 誌名はイタリック体とし、半角スペースの後にシリーズ番号を記載し半角カンマを打つ。所収ページ数はシリーズ番号の後ろに半角あけて記載する。シリーズ番号についてはイタリックにしない。
- ・ シリーズ番号の「vol.」、「number」、「issue」等は原則として用いず、「23(2)」のように記載する。

Straus, L.G.

__2006__ “Of stones and bones: Interpreting site function in the Upper Paleolithic and Mesolithic of Western Europe.” *Journal of Anthropological Archaeology* 25, 500-509.

Tremayne, Andrew H.

__2011__ “An Analysis of Faunal Remains from a Denbigh Flint Complex Camp at Matcharak Lake, Alaska.” *Arctic Anthropology* 48(1), 33- 53.

③ DOI 番号を持つ論文については、引用論文の記載方式に従うことを原則とするが、2つの方式に大別できる。いずれかに統一が望ましいが、支障がある場合は双方を可とする。

- 1) 電子ジャーナルサイト（「J-STAGE (www.jstage.jst.go.jp)」）と取得 DOI 番号（「DOI:～」を記載し、最後にピリオドを打つ。

Tsutaya, T., Naito, Y., Ishida, H., and Yoneda, M.

__2014__ “Carbon and nitrogen isotope analyses of human and dog diet in the Okhotsk culture: perspectives from the Moyoro site, Japan.” *Anthropological Science* 122(2). 89-99.
J-STAGE (www.jstage.jst.go.jp) DOI: 10. 1537/ase. 140604.

- 2) 読者が直接アクセスできる URL（「http://dx.doi.org/」）の後に、DOI 番号（下記の例では「10.1073～」を記載、最後にピリオドを打つ。

Zahid, H.J., Robinson, E., and Kelly, R.L.

__2016__ “Agriculture, population growth, and statistical analysis of the radiocarbon record.” *Proceedings of the National Academy of Sciences* 113(4). http://dx. doi.org/10. 1073/pnas. 0808960106.

【露文献の場合】

- ・ キリル文字での記載とする。
- ・ 著・編者名の読みガナは不要とする。
- ・ 基本的な項目とその順序は、和・欧文献と同一とする。（著編者名、出版年、論文名、書名、巻号数、出版地、掲載頁数）。露文献では発行所名は特に必要がない限り記載しなくてよい。
- ・ 執筆者名は、姓と名・父称のイニシャルで示す。本規定では執筆者名はイタリック体としない。
- ・ 著者名が複数の場合はカンマで区切り全員の氏名を記載する。姓が先行するのは、欧文献と同様。
- ・ 露文献では編者名は必須ではないが、編者名を記載する必要がある場合は、著者名の後ろに、半角丸括弧に入れた「(ред.)」を付す。
- ・ 論文名と書名の間はピリオドではなく、露文献で常用するダブルスラッシュ「//」を用いて良い。前後に半角スペースを入れる。書名の後にはカンマを入れ、巻号数を記載する。
- ・ 巻号冊数は、原典にある略号を付したまま記載して良いが、ダッシュは使用せず、半角スペースを用いる。
- ・ 掲載頁数は大文字の「C.」を用い、半角空けてアラビア数字で記載する。複数頁の場合は、ハイフンで繋ぎ、最後にピリオドを打つ。（「C.〇〇-〇〇.」）

A. 単行本

〔例〕 ① 単著の場合

Щербакова, Т.И.

__1994__ Материалы верхнепалеолитической стоянки Талицкого (Островской). Екатеринбург.

② 共著の場合

Архипов, С.А., Волкова, В.С.

__1994__ Геологическая история, ландшафты и климаты плейстоцена Западной Сибири. Новосибирск.

③ 編書の場合

Крушанов, А. И (ред)

__1989__ История Дальнего Востока с древнейших времен до XVII века. Москва.

B. 露冊子体（単行本、シリーズ本）所収の論文の場合

[例] ① 単行本所収の場合

Алексеев, В.П.

__1980__ Материалы по краниологии мохэ // Палеоантропология Сибири. Москва. _C._106-129.

② シリーズ本の場合

Нестеров, С.П., Алкин, С.В.

__1999__ Раннесредневековый могильник Чалиба на р. 2-я Сунгари // Традиционная культура востока Азии, Вып. 2. Благовещенск. _C._153-176.

Богораз-Тан, В.Г.

__1932__ Северное оленеводство по данным хозяйственной переписи 1926/27 гг. // Советская Этнография, № 4. _C._26-62.

※ 露文献の場合は、巻、号、冊等の名称は省略せず記載する。

【ウェブサイト上の情報の場合】

- ・記載する項目は、原則として「作成者名」、「最終更新年」、「作成品名（文献、データベース、画像等）」、「掲載ウェブサイト名」、「取得先 URL」、「取得年月日」とする。
- ・年月日については、西暦を用い、年、月、日をスラッシュで区切って「2016/05/15 取得」のように記す。
- ・取得 URL は、全角括弧に入れる。
- ・未出版の博士論文の場合は、「博士論文」および、「学位授与機関名」を論文名の後に両丸括弧に入れ記載する。

A. 文献（DOI 登録のない PDF）

[例] ① 博士論文

田島佳也

__2015__ 「近世北海道漁業と海産物流通」（博士論文 北海道大学）_北海道大学学術成果コレクション HUSCAP (<http://hdl.handle.net/2115/60489>) 2016/03/01 取得

② 一般文書

文部科学省

__2009__ 「3. 我が国の学術情報発信の今後の在り方について」

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1337939.htm)

2016/04/01 取得

B. データベース・画像

[例] ① データベース

小澤一雅

__2013__ 前方後円墳データベース

(http://www3.kcn.ne.jp/~yuka-o/cgi-bin/newSearch/search_kofun.cgi) 2014/10/06 取得

② 画像

Frenken, Ralph

__2016__ Norwegian Rock Art - Alta Fjord

(<http://www.donsmaps.com/images27/panoramab59105911.jpg>) 2016/06/06 取得

③ 白地図

国土地理院

__2007_ 地理院地図 CSI Maps

(<http://maps.gsi.go.jp/#6/40.697299/143.393555/&base=blank&ls=blank&disp=1&lcd=blank&vs=c0j110u0f0>) 2015/7/23 取得

VII. 図版

1. デジタルデータによる提出

図版類はデジタルデータによる提出が望ましいが、図版原稿のデジタル化が困難な場合は、旧来通り完成図の原版（トレース済み・薄様掛け）を提出することができる。

2. 白黒印刷

図版は、原則、白黒印刷であるので、作製に当たってはこれを踏まえた画像の識別に留意すること。何らかの理由でカラー印刷を希望する場合は、執筆者負担とする。

3. 掲載許可

掲載許可を必要とする写真等に就いては、執筆者の責任で投稿前に手続きを済ませておくこと。

4. 解像度

書籍出版用の精密なオフセット印刷では、画像データに高解像度を必要とするため、デジタル画像の作製に際しては、推奨解像度を下記のように定める。

A. 線画の場合

モノクロ：1200 dpi.

B. 画像の場合

グレースケール：600 dpi.

カラー：300-350 dpi.

5. レイアウトと縮尺

製版に際しては版面横幅（136 mm）、図表により版面縦幅（198 mm）、に収まるのが優先されるため、これを考慮した縮尺で原版を作製すること。また、版面高（198 mm）には図キャプションのスペースも含まれるので、合わせて留意すること。

6. レイアウト見本

- ・図版のデジタル化が困難な場合は、各図版の挿入箇所を本文中に赤字で記載すること。また、図版原版には薄様をかけ、掲載時の縮尺等の必要な指示を赤字で記載する。
- ・デジタル図版を提出できる場合は、図版のレイアウト見本（紙媒体）に、掲載時の希望縮尺（「原寸大」、「〇〇%」、「適宜」等）、その他必要なすべての指示を赤字で記載する。

7. 元画像の提出

デジタル画像によるレイアウトを行った場合は、紙媒体のレイアウト見本に加え、デジタルのレイアウトデータ、および元の画像データも送付する。画像類は、図版ごとに分かり易く整理し、CD-ROM ないし DVD-R に格納したものを送付する。

8. その他

- ・図版番号とキャプションの対応が適正か事前にチェックすること。

VIII. 著者校正

著者による校正は、特別の場合をのぞき、初校のみとする。校正に際しては、字句の修正、画像の差替え等に止め、内容の大幅な修正、あるいはページ数に影響する変更は認められない。

IX. 別刷り

著者には掲載誌 1 部を進呈し、掲載原稿の PDF データを提供する。別刷りを希望する場合、別刷りの印刷費は著者負担とする。